

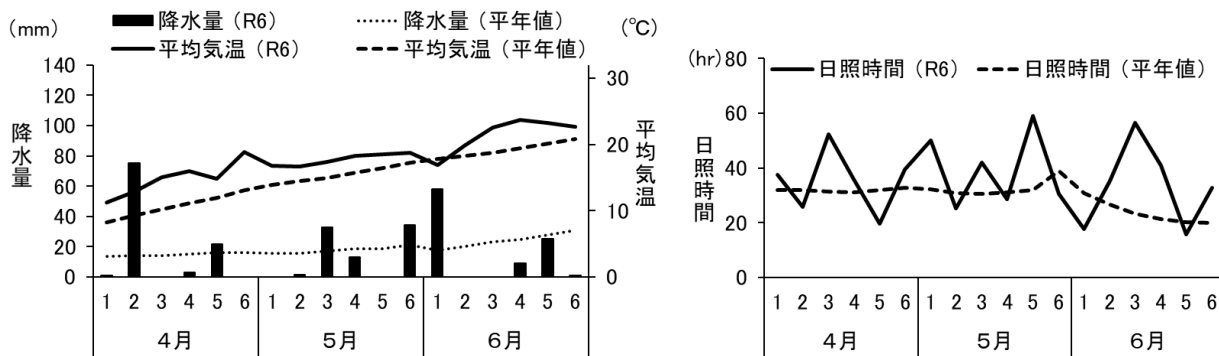
# 仙台稲作情報 2024 (第4号)

宮城県仙台農業改良普及センター TEL: 022-275-8410 FAX: 022-275-0296  
 http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai E-mail: sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

## 栽培管理のポイント

- ▷ 中干しは幼穂形成期前までに終わらせましょう。
- ▷ 病害虫防除は防除適期を逃さず計画的に実施しましょう。
- ▷ 追肥は稲の葉色や生育ステージを確認して実施しましょう。

## 1 気象経過



- ・ 6月中旬と下旬の平均気温は平年よりかなり高く推移し、日照時間も概ね平年より多くなりました。
- ・ 東南部は6月23日頃に梅雨入りしたとみられますが、6月下旬の降水量は平年並から少なく推移しました。

## 2 管内の生育状況（7月1日の調査結果）

### (1) 移植栽培（ひとめぼれ）

草丈は56.3cmで概ね平年並、葉色は39.3でこの時期の目安（40前後）の範囲内となっています。茎数は550本/m<sup>2</sup>で平年（471本/m<sup>2</sup>）よりやや多い状況でした。

表1 7月1日の調査結果

品種	地帯	場所	田植日	草丈 (cm)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )			葉色値 (GM値)		
				本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市宮城野区	5/16	51.4	100	104	350	90	89	39.7	-0.7	-1.7
	北部平坦	大郷町鶉崎	5/7	60.7	108	116	695	132	124	38.8	-0.5	-1.0
	西部丘陵	仙台市泉区	5/15	56.9	101	105	605	122	100	39.5	-1.7	-1.7
	管内平均			56.3	103	108	550	117	106	39.3	-1.0	-1.5
ササニシキ	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/17	52.6	107	98	518	107	94	40.6	+0.6	-0.5
金のいぶき	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/7	60.8	120.2	-	471	80	-	33.8	-2.8	-

※平年比の計算は、直近3か年の平均値を使用。仙台市若林区「金のいぶき」は平年値なし。

表2 品種別生育調査結果（県内32地点）

品種	草丈 (cm)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )			葉色値 (GM値)		
	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	54.9	102	107	518	100	98	41.3	-0.1	-1.6
ササニシキ	52.4	108	108	563	100	92	40.7	+1.2	+0.1
つや姫	55.7	105	117	467	87	95	40.8	-3.0	-3.9

※ひとめぼれ 18 地点、ササニシキ 6 地点、つや姫 8 地点、古川農業試験場、仙台の地点含む

## (2) 乾田直播栽培

ササニシキの草丈は 50.8cm、茎数は 475 本/m<sup>2</sup>、葉色は 30.3、ひとめぼれの草丈は 54.5 cm、茎数は 261 本/m<sup>2</sup>、葉色は 31.2 でした。

表3 7月1日の調査結果

品種	地帯	場所	播種日	草丈 (cm)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )			葉色値 (GM値)		
				本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差
ササニシキ	仙台湾沿岸	仙台市若林区	4/18	50.8	96	98	475	71	68	30.3	-5.5	-9.3
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市若林区	4/21	54.5	-	-	521	-	-	31.2	-	-

## 3 本田管理

**気温が高い傾向が続いています。稲の生育や、病害虫の発生が早くなることが予想されますので、適期管理をこころがけてください。**

### 移植栽培

#### (1) 水管理

- ・ 気温が高いため、分けつが急増しています。有効茎数を確保したら、早めに中干ししてください。
- ・ 中干しは遅くても幼穂形成期前に終了し、終了直後は走り水程度として徐々に間断かんがいに移行しましょう。その後は出穂期まで飽水管理とし、土壌を酸化的に保ち、根の活力を維持しましょう。  
※飽水管理とは、水田の足跡に水が無くなったなら入水し、表土が十分湿ったら落水する水管理です。
- ・ 幼穂形成期から減数分裂期に、日平均気温 20℃以下が長期間続く場合や最低気温 17℃以下の場合には障害不稔が発生する危険性が高くなりますので、できるかぎり深水管理を実施しましょう。  
※幼穂形成期：幼穂長が 1～2 mm に達した時 減数分裂期：幼穂長が 30～120mm に達した時

#### (2) 病害虫防除

##### ① いもち病

- ・ 病害虫防除所の発生予察情報（6月24日発行）では、葉いもちの発生量は「平年並」と予報されています。
- ・ 箱施用剤を使用していない場合は水面施用剤による予防防除を実施しましょう。
- ・ 7月中旬から箱施用剤の効果は低下し始めるとともに、葉いもちの感染好適条件が出現しやすい時期となります。ほ場を見回り、発病が見られた際は速やかに茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・ 追肥後一時的に稲体窒素濃度が高くなると、いもち病に対する抵抗力が弱くなるので、発生に注意してください。
- ・ BLASTAM による葉いもちの感染好適条件の推定結果は、以下の病害虫防除所ホームページを参照してください。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

##### ② 紋枯病

- ・ 近年、発生が目立つ病害です。前年に発生が多かったほ場では多発のおそれがありますので、穂ばらみ期の水面施用剤、穂ばらみ期～出穂期の茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・ 病斑は水際の葉鞘に現れるので、茎葉散布剤による防除では、株元に薬剤がよく付着するよう十分な薬量で散布しましょう。
- ・ 防除要否の判断は表3を参考として、被害許容水準を超える発病がみられたら防除してください。

表4 防除要否の判断基準(被害確率 50%で設定)

被害許容水準	穂ばらみ期発病株率		
	ひとめぼれ	ササニシキ	コシヒカリ
収量5%以上減収	18%	10%	29%
収量3%以上減収	12%	9%	18%
収量1%以上減収	10%	3%	14%
白未熟粒3%以上増加	67%	28%	51%
白未熟粒1%以上増加	11%	-	12%

古川農業試験場

普及に移す技術第 90 号参考資料「イネ紋枯病の新しい要防除水準」より抜粋

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/305990.pdf>



イネ紋枯病病斑

### ③ 斑点米カメムシ類

- ・イヌホタルイ、ノビエ等の水田雑草は、斑点米カメムシ類の水田への侵入を助長するので、7月上旬までに中・後期除草剤を用いて除草を行いましょ。 **6月下旬時点で、イヌホタルイが水田内に残っている場合、落等する確率が高くなるため、1回目の薬剤散布の時期を「出穂始期～穂揃期」に早めると効果的です。**
- ・生息地である水田周辺のイネ科雑草を刈り取ることで、周辺環境の斑点米カメムシ類の密度を抑え、斑点米被害粒率を抑制できます。幼虫主体の時期である7月中旬までに刈り取りましょ。
- ・水稻の出穂前後の畦畔の草刈りは斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、水稻が出穂する10日前までに行いましょ。

### (3) 追肥

- ・葉色は今後低下することが予想されます。ほ場をよく観察し、適切な追肥を行い穂揃期の葉色維持に努めましょ。
- ・追肥時期の葉色、品種ごとの時期及び施用量については表5、表6を参考にしてください。
- ・ほ場により生育が異なるので、幼穂長による生育ステージの確認を必ず行いましょ。
- ・基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合または復元田の場合は、倒伏が懸念されるため、原則として追肥は行いません。
- ・「金のいぶき」の葉色は幼穂形成期頃から「ひとめぼれ」より淡く推移ましょるので、急な葉色の低下に注意し、登熟向上のために表5の目安で2回の追肥を基本として実施ましょ。
- ・「だて正夢」は、他品種に比べ茎数が少なく葉色が濃く推移ましょ。幼穂形成期に目安の茎数(390～460本/m<sup>2</sup>)が確保できている場合は、減数分裂期の追肥を基本として実施ましょ。

表5 生育ステージにおける葉色の目安

品 種	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ	38～40	35～37
ササニシキ	34～36	32～34
まなむすめ	35～37	36～38
だて正夢	40～42	37～39
金のいぶき	33～35	30～32

※ 葉緑素計 (SPAD 値)

表6 穂肥の標準的な窒素施用量の目安(成分量/10a)

品 種	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ 金のいぶき	1.0kg	1.0kg
ササニシキ	-	1.0～1.5kg
まなむすめ つや姫	2.0kg	-
だて正夢	- (茎数が少ない場合 は 1.0kg)	2.0kg (幼穂形成期に 1.0kg 追肥した 場合は 1.0kg)

### 乾田直播栽培

基本的には移植栽培と同じ管理となりますが、以下の病虫害の発生に注意ましょ。

#### (1) いもち病

直播栽培は、移植栽培より生育ステージが遅く、感染のタイミングが遅れる傾向があります。

**ほ場を見回り、早期発見・早期防除に努めましょ。**

#### (2) イネツトムシ

通常は8月上旬頃から加害が始まります。特に葉色が濃い部分に産卵されることが多く、直播栽培で問題となることがありますので発生に注意し、防除が遅れないようにましょ。

## 4 東北地方の向こう1か月の天候の見通し(6/27 仙台管区気象台発表)

予報のポイント

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間はじめは気温がかなり高くなる見込みです。
- 降水量、日照時間ともにほぼ平年並の見込みです。

### ■宮城県農薬危害防止運動実施中(6月1日～8月31日)

宮城県では、6月から8月にかけて農薬危害防止運動を実施しています。この時期は農作物等の病虫害が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底ましょ。

次回の稲作情報第5号は、7月10日に実施する生育調査の結果をもとに7月11日頃の発行となります。